

令和2年度第1回大野市環境保全対策審議会の概要

日 時 令和2年5月29日(金)

午後7時00分～午後8時45分

場 所 大野市役所 2階 大会議室

1. 委嘱式

- (1) 委嘱状の交付
- (2) 委員の紹介
- (3) 市長あいさつ
- (4) 会長・副会長の選出

2. 趣旨説明

- ・事務局より配布資料の確認を行うとともに、資料2「大野市環境保全条例(抜粋)」、資料3「第三期大野市環境基本計画策定スケジュール」により説明。

3. 議事(要旨)

(1) 大野市環境基本計画の概要及び実績等について

- ・事務局より、資料4「越前おおの環境基本計画 概要版」、資料5「第二期環境基本計画 重点プロジェクト別数値目標の達成状況」により説明。
- ・委員からの意見等は次のとおり。

○委員：生活排水対策の数値目標の実績が目標を下回っているが、今後、具体的にどんな対策を講じるのか。

→事務局：公共下水道の対象エリアにおいて1件1件を訪問し、加入促進を行っているところだが、今後の対応については、庁内関係課で構成する第三期計画策定ワーキンググループにて検討してまいりたい。

○委員：農用地面積の目標値は達成度が102であるので評価は○ではなく◎ではないか。

→事務局：ご指摘のとおり修正したい。

○委員：市民一人1日当たりのごみの排出量が増えている理由として、中部縦貫自動車道の工事関係者や観光客など交流人口の増加等によるとの説明だったが、観光客等を受け入れていくことがマイナスなイメージになってしまうような理由はいかがかと思う。観光客数等を考慮して計算するなど、工夫をしてはどうか。

→事務局：全国的な統計指標として計算方法が統一されているが、第三期計画の数値目標を検討す

る際にご指摘いただいたことについて反映できるか検討していきたい。

(2) 第三期大野市環境基本計画の策定方針

- ・事務局より、資料6「第三期環境基本計画策定の策定方針」により説明。
- ・委員からの意見等は次のとおり。

○委員：第二期計画と比較して第三期計画において重要視している事項はどんなことか。

→事務局：①「気候変動に関すること」については、世界的に取り上げられていることから重視してまいりたい。②「食品ロスの削減について」は、新たに重点的に取り組んでまいりたい。③大野市における大きな変化に対応してまいりたい。④SDGs や温室効果ガスの削減については、新しく取り組む内容である。

○委員：湧水関係は、別の会議等で審議したものを最終的に第三期計画に組み込むのか。

→事務局：湧水関係、地下水関係は、「水循環・湧水文化再生計画」を別の審議会にて具体的な取組を検討し策定する予定だが、大きくは環境基本計画の中の一つの分野という位置づけになるので、項目は上げるが具体的な内容は組み込まない。

○委員：自然体験は、お金のある人がお金を払って体験にくる。お金のない人にどうやって自然体験活動に参加してもらうかが課題。環境教育については、自然体験や環境学習等の情報提供だけでなく、学校教育の中ですべての人が対等に体験できるような取組を盛り込んでほしい。

→事務局：情報提供だけでなく、環境教育や自然体験に取り組むことについて、考慮すべき事項に修正・追加し、検討を進めてまいりたい。

○アドバイザー：策定方針の中で大事だと思われる点は、まず「若者の視点」。10年後の大野市の環境を担う地元の若者が、大野の環境にどのように親しんで、関わって、学び取っていくのか、関わってもらうかということをも十分検討していただきたい。

○アドバイザー：ある研究によれば、環境関連に携わらない普通の方が環境やエネルギーに思いを巡らせる時間は一年に四秒程度と言われている。普通の人にとって環境問題はまだまだ考えることのないテーマである中で、どうやったら楽しく環境問題に取り組んでもらえるかが課題。環境問題に取り組むことの楽しさを前面に打ち出して検討していただきたい。

○アドバイザー：災害廃棄物の仮置場が事前に設定されていないと、被災後に急遽設定した仮置場が収集しにくい位置にあったため、近隣住民が災害廃棄物にさらされてしまうという状況になってしまう。そうならないためにも前もって設置場所等を決

めておくことが重要。

○アドバイザー：環境省では、地域循環共生圏として、環境と経済と社会のそれぞれが地域の中でうまくいくようなアプローチを提案している。例えばバイオマス発電所を域内に建設した場合、今まで化石燃料による発電エネルギーを域外から買っていたものが、お金が外に出ていかないことになる。この分のお金が域内で消費されればさらに経済が回っていくことになる。まずは環境によい取組をし、同時に経済循環を潤していくようなアプローチである。

環境問題を解決するという目標からバックキャスト的に検討するとつらい議論になるので例えば、CO2削減のため単純に車に乗らないことを勧めるのではなくて、歩いて健康によい、歩いてまち並みを観察して楽しいといったことや地域の経済循環が増えるといったことなど、取り組みやすいアプローチの中から議論を楽しく進めていただきたい。

○アドバイザー：市民向けと市外の方向けどちらに対する施策が整理して進めていくとよい。例えば、市民向けであれば、市民が毎日見る近くの里地里山の景観やCO2削減といったこと。市外に向けてであれば、大野市の環境のブラッシュアップや、自然体験事業の取組による経済活動といったこと。

○アドバイザー：コロナショックで、自分の意思と関係なく環境が悪くなることで自分の生活が激変するという意識が浸透しているように感じる。我々が普通に暮らしているフィールドが環境の変化によって外に出られなくなったり、あると思っていた水や資源を活用できなくなったりする、そんな未来にさせないために何ができるのか、今回のコロナショックで貴重な教訓に出くわしているのではないかと思っている。10年に1回の大きな計画であるので、そういった観点も捉えておくるとよい。

(3) 市民等意識調査について

・事務局より、資料7「第三期大野市環境基本計画 アンケート基本方針」、資料8「環境に関する市民アンケート調査票」、資料9「環境に関する事業所アンケート調査票」、資料10「環境に関する小学生・中学生アンケート調査票」をもとに説明。

○委員：市民アンケートの対象者は無作為抽出ではなく、年代ごとに抽出する割合を決めて抽出するとよいのではないか。若者、子育て世代、高齢者、それぞれにどういったアプローチをしていくとよいかといったことの検討がしやすい結果が得られるのではないか。

○委員：市民アンケートの記入にあたってのお願いに「本人に限らず家族の方ならどなたでも構わない」との説明書きがあるが、抽出条件を設定するのであれば、抽出された本人が必ず書くようにする説明書きに変更してはいかかがか。

→事務局：委員ご指摘の手法をとっているアンケート調査を参考にし、検討したい。説明書きについても、手法に合わせる形で修正したい。

○委員：事業所のアンケート配布数が第二期では500件だったものが第三期では300件に減らした理由は何か。

→事務局：第二期計画策定に際し、アンケート結果を施策に反映する過程で回答数を絞っても問題ないという検証があったことから、市民対象を増やして事業所数を減らした。

○アドバイザー：小中学生向けのアンケート問7「大野市で一番いい景色はなんですか」が非常によい。大野市の環境を象徴するイメージをみんなで共有できれば、それを保全するために何をしようという思いが生まれ、意識の啓発にもつながり良いと考える。

○委員：第三期計画を策定するうえで考慮すべき事項として、外来生物対策について具体的に言及しているが、小中学生向けのアンケートに該当がない。生物多様性の保全施策に資するようなアンケートをとるためには、問6に工夫が必要。

→事務局：子どもに伝わりやすい表現を工夫して、設問に加えられるよう検討したい。

(4) その他

- ・事務局より資料3「第三期大野市環境基本計画策定スケジュール」をもとに、次回審議会にて予定している議題について説明。
- ・主な議題は「アンケート結果について」「基本方針について」。

4. その他

- ・委員報酬事務について説明。

5. 副会長あいさつ